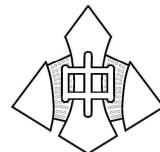


手をたずさえて

- 心身ともに健康で明朗な生徒
- 自主的に学習する生徒
- 責任を重んじ協調性のある生徒



令和2年11月13日(金)発行

【発行責任者】郡山市立小原田中学校長 熊坂 洋

あなどってはいけない“挨拶”の効果

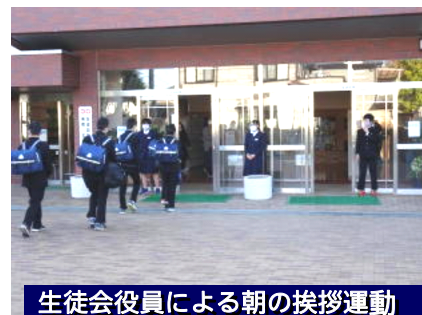
前任校の富田中は校門の前の道路が急な坂道になっています。毎朝横断歩道に立っていましたが、その急な坂を自転車をひきながら上ってくる郡山北工業高校の女子生徒がいました。富田中の卒業生ではないにもかかわらず、彼女は、校門に立つ数名の教員や横断歩道にいる我々一人一人に毎朝「おはようございます！」と顔を向けながらしっかりと挨拶をしてくれました。ある時、おそらくお母さんが運転する自動車に乗車していた時がありました。車の座席からも我々にきちんと会釈をしてくれました。とてもすがすがしい気持ちになると同時に「この生徒はきっと普段の生活態度や学習態度もきちんとしているのだろうな」と、その人となりを容易に想像することができました。しっかり相手に伝わる挨拶ができる人間は、周りに好印象を与え、得をします。

小原田中では毎朝、生徒会役員、週番の生徒による「挨拶運動」が行われています。以前に比べれば、相手に伝わる挨拶のできる人が少しずつ増えてきています。にこやかに挨拶のできる人、こちらを見て会釈しながら挨拶のできる人、遠くからでもこちらの姿を見つけると挨拶のできる人など。しかしながら、まだまだ改善の余地はあります。相手に伝わる挨拶ができる生徒と挨拶ができない(挨拶という習慣が身に付いていない)生徒の差が大きいこと、挨拶をしても気持ちが込められていないため相手に伝わっていないこと、少し離れていると挨拶ができないなどの課題があげられます。

挨拶は相手の自分自身に対する印象を大きく左右します。気持ちを込めれば相手に伝わります。挨拶が良ければ、相手はその本気度を評価し、その第一印象は後々にも大きな意味を持つこととなります。さらに、挨拶を意識することで、自分自身にもメリハリをつけスイッチをしっかりと入れることができます。

店舗であれば、店の雰囲気が変わり、お客様の評価やリピート率に寄与し、中には「料理の味が違って感じる」という客も出てきます。企業では、職場の雰囲気、仕事のしやすさ、社内コミュニケーションの円滑化、チームワークの向上、ミス・ロス低減、取引先イメージの向上など、様々な効果を発揮します。「企業(店舗)の評価=売上・利益=挨拶」という図式が成立し、挨拶ひとつで企業(店舗)全体が大きく変わるので、だからこそ、多くの会社の社長さんが採用したい人材として「挨拶のできる人間」をあげるのだと思います。

1学期にも放送講話で挨拶について話をしました。もう一度言います。相手を見て、相手にしっかりと伝わる声で、できれば相手より先に、そして、遠くにいても挨拶ができる人間になってほしい。朝の「おはようございます」だけでなく、「こんにちは」「さようなら」もしっかり言える人間になってほしい。『挨拶を軽く考えはいけない。あなどってはいけない』…挨拶はときにその人間の人生を大きく変える行為にもなり得るということを忘れないでほしいと思います。



生徒会役員による朝の挨拶運動

今、この時期に生活習慣と学習への取り組みの見直しを図ろう！

大きな行事も終了し、3年生は本格的な受験勉強に突入し、1・2年生は定期テストⅢを控える今、一人一人が自分自身の生活習慣を見直す時期です。先に記述した挨拶、時間を守ること(登下校、授業開始等)、清掃への取り組み、家での規則正しい生活、そして、感染症拡大が心配される冬場を迎えるこれからの時期の感染症防止対策の徹底など、自分の生活を総点検し改善を図ってください。併せて、授業に集中して取り組み、家庭学習の時間を増やすなど学習に向き合う姿勢や気持ちも整えてほしいと思います。



4組らしい歌声が文化センター大ホールに響き渡りました！

11月12日（木）けんしん郡山文化センターにおいて「第48回郡山市中学校音楽学習発表会」が行われました。各学校の校内合唱コンクールで学校代表の賞を得た学級が集い（小規模校では学年全員や全校生で参加する学校もあります。）それぞれに素晴らしい合唱を披露しました。本校からは3年4組が出場しました。はじめに村上喜歩子さんが学級紹介を述べ、佐藤麗さんの指揮により「証」をアカペラで歌いあげました。女声パート、男声パートのバランスも良く、澄みきった美しい歌声が文化センター大ホールに響きました。強弱のある気持ちのこもった歌声でした。数々の有名なミュージシャンや音楽家が演奏をした同じ舞台の上で演奏できたというこの貴重な経験は、中学校生活の大きな思い出のひとつになったと思います。今回得ることができた一人一人の想いをこれからずっと大切にしてほしいものです。

また、今回の発表会ではきめ細かな感染症防止対策が講じられていました。検温、健康観察はもちろん、座席シートも除菌シートで拭いたり、会場内の移動もソーシャルディスタンスを保つよう配慮されたりしていました。ステージ上でも演奏後には床のモップがけ、ピアノ鍵盤の消毒、ピアノの椅子の交換などがてきぱきと行われていました。何より安心・安全な発表会の実現のため、今回尽力された市内中学校の音楽科の先生方に感謝いたします。



学級紹介をする村上さんと指揮の佐藤さん



大舞台での堂々とした合唱

- ◆ 文化祭の「証」を聴いてから文化センターで歌った「証」を聴くと、はかなさや強弱が出ていて文化祭で歌った「証」よりもとても上手になっていた。緊張しすぎて舞台上がり指揮者が手を上げた時に足を開くの忘れていたが、敦紀君が「左足」と言ってくれたおかげで足を開くことができました。文化センターで歌えてとてもよかったと思います。（伊藤 慧）
- ◆ ステージに立った時なつかしさを感じました。小学校4～6年の時このステージに立って他の学校と競い合ったことを思い出しました。そして、歌い始めた時、すごく楽しいという気持ちが心を満たしました。歌の優劣を決めることより、今、この瞬間ホールの中で声を響かせることが楽しくて仕方ありませんでした。この発表会に参加して、あの頃と今の違いがわかり、そして努力は実ることを知りました。（安田愛理）
- ◆ 他の中学校の合唱を聴いて少し不安になりましたが、3年4組ならとてもいい声で気持ちのこもった歌がうたえろと思いき、本番では今まで練習してきたことを全部出し、最後まで歌うことができました。この経験でみんなと力を合わせて全力で取り組むことの大切さを知ることができました。最初で最後の3年4組での音楽学習発表会は3年間の思い出の中でとても上位の思い出になりました。（小林花心）

◆ 今年はコロナウイルスが流行っていたので、音楽学習発表会は無理かなと思っていたので、行けて嬉しいなと思っていましたが、実際に行って、感染予防のために動いてくださっている方々を見て、その人達への感謝と、今日このホールで歌うことができたという嬉しさを感じることができました。（小松美結）

◆ 今日体験してきたことは僕たちの努力の「証」になったと思います。（柳沼敦紀）

保護者の皆様へ 奉仕作業・資源物回収への御協力に感謝いたします！

11月7日（土）に行われました第2学年PTA奉仕作業では多くの保護者の皆様に参加していただきありがとうございました。併せて、第2回資源物回収へのご協力にも感謝いたします。また、文書やHPでもお知らせしましたとおり、感染リスクが高まる「5つの場面」の回避や感染症防止対策の徹底も引き続きお願いいたします。

